［１１］東臼杵郡小体連

（学校数１６校　児童数 1,429 人）

Ⅰ　年間事業

日　時	内　　容	場　　所
７月　３日（月）	第１回東臼杵地区小体連 理事会・評議員会	諸塚村中央公民館
７月２１日（金） ７月２４日（月） ７月２６日（水）	美郷町小学校水泳大会 諸塚村水泳記録会 椎葉村小体連水泳大会	美郷南学園プール 諸塚村営プール 椎葉小プール
１０月１２日（木） １０月１８日（水） １０月２０日（金）	諸塚村小学校陸上記録会 椎葉村小体連陸上大会 門川町小学校陸上教室	諸塚村総合運動公園 椎葉村総合運動公園 門川町海浜総合公園
１０月２６ ～２７日	第５７回宮崎県学校体育研究発表大会に参加	えびの市立飯野小学校
２月下旬	第２回東臼杵地区小体連 理事会・評議員会	諸塚村 諸塚村中央公民館

※　その他、各町村で体育主任会を数回実施している。

Ⅱ　事業部のあゆみ

１　水泳大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
美郷町	美郷町小学校水泳大会	７月２１日（金）	美郷南学園プール
諸塚村	諸塚村水泳記録会	７月２４日（月）	諸塚村営プール
椎葉村	椎葉村小体連水泳大会	７月２６日（水）	椎葉小プール

【出場者】　　諸塚村 3～6 年、美郷町・椎葉村 5，6 年児童（161 名）

【実施種目】　　２５ｍ（自由形、平泳ぎ）　５０ｍ（自由形、平泳ぎ）　１００ｍリレー

２　陸上大会・教室

地区	大会名	実施日	会場
諸塚村	諸塚村小学校陸上記録会	１０月　５日（水）	諸塚村総合運動公園
椎葉村	椎葉村小体連陸上大会	１０月２５日（火）	椎葉村総合運動公園
門川町	門川町小学校陸上教室	１０月２７日（木）	門川町海浜総合公園

【出場者】　　門川町・諸塚村・椎葉村 5，6 年児童（262 名）

【実施種目】　　100ｍ走　　50ｍハードル走　　女子 800ｍ走　　男子 1000ｍ走

走り幅跳び　　走り高跳び　　ソフトボール投げ　　400ｍリレー

※　地区によって実施していない種目あり

Ⅲ　研究のあゆみ

１　研究主題・副題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方 ～「陸上運動」における主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

２　主題設定の理由

現在、我が国日本は、グローバル化や少子高齢化による生産年齢人口の減少、人間関係の希薄化など多くの問題を抱えている。その社会の変化の中で、様々な問題に対して長期的な見通しをもって、主体的に社会にかかわり、解決に臨むことが求められている。また、２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を受けて、日本国民の体育・スポーツへの関心は高まってきている。さらに、日本社会における健康意識の高まりを受けて、健康食品や様々なダイエット法などが示されるようになってきている。しかし、一方でITの急速な進化を受けて、雇用形態の多様化が進み、健全な生活習慣や食習慣が保たれないようになってきている。

このような課題を受けて、児童は多様な変化の中、主体的に問題にかかわり、他者との話合いを通して、新たな価値あるものを創造していく力が求められている。

東臼杵地区は、門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村の４つの小学校体育連盟が集まって構成されている。多くの小学校が小規模であり、自然に囲まれ、児童は温かい人間関係の中で育ってきている。その一方、近くに公園や運動施設がなかったり、バスや車の登下校で日常的に運動不足に陥ったりしている。また、スポーツ少年団などの活動も各校でばらつきがあり、特にスポーツ少年団がない山村地域の小学校では、学校以外での運動をする機会がほとんどないのが実情である。そのため、運動能力の二極化が児童間で広がっている地区もあり、運動の機会が極端に少ないまま大人になってしまう可能性のある児童も見られる。人間形成において重要な時期である小学校段階に、運動に親しむ資質や能力の基礎を形成することは生涯にわたってスポーツに親しみ、健康な生活を送る上で大変重要である。

東臼杵地区では、研究主題を「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方」とし、４つの町村それぞれの小学校で児童や学校、地域の実態に応じて陸上運動に絞って、副題を設定し、研究に取り組んできた。

そこで、各学校での取組を継続させながら、児童がより主体的に運動にかかわり、対話的で深い学びを実現するための手立てを講じ、健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることにつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

３　研究の目標

主体的に運動にかかわり、課題解決のために対話的で深い学びの視点に立った授業展開の工夫をすることで、児童は運動に楽しみを実感させ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方を追求する。

４　研究の仮説

①　単元の指導過程の工夫や場の設定を工夫することで、主体的に運動にかかわる態度を引き出すことができるであろう。 ②　学習カードを工夫することで、対話的に話合いをさせることができるであろう。 ③　児童に課題解決にかかわる気付きを与える発問の工夫をすることで深い学びを実現することができるであろう。

5　研究の構想

【研究主題及び副題】
生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～「陸上運動」における主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

【研究の目標】
主体的に運動にかかわり、課題解決のために対話的で深い学びの視点に立った授業展開の工夫をすることで、児童は運動に楽しみを実感させ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方を追求する。

【研究仮説】
①　単元の指導過程の工夫や場の設定を工夫することで、主体的に運動にかかわる態度を引き出すことができるであろう。
②　学習カードや作戦カードを工夫することで、対話的に話合いをさせることができるであろう。
③　児童に課題解決にかかわる気付きを与える発問の工夫をすることで深い学びを実現することができるであろう。

【研究内容】
(1)　主体的に運動にかかわらせる工夫
　ア　単元の指導過程の工夫(興味・関心を引き出す)
　イ　場の設定の工夫
(2)　対話的に話合いをさせる工夫
　・　学習カードの効果的な活用(知識をもとにした話合い)
(3)　深い学びをさせる工夫
　・　気付きを与える工夫(コツや成功の自覚化)

6　研究の実際

(1)　主体的に運動にかかわらせる工夫

ア　単元の指導過程の工夫(興味・関心を引き出す)

運動に主体的に関わろうとする態度を引き出すため、興味・関心を高め、単元の最後に学びの活用で、記録会や大会を開くようにした。

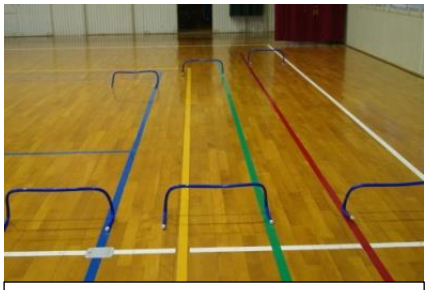
第１時	第２時～第〇時	最終時
「やってみる」 **・運動との出会い** **・課題の発見と共有** **・学習の進め方**	**「わかる・できる・かかわる」** **・補助運動による基礎的な技能の高まり** **・主運動の技能の習得** **・対話的な話合い　・記録への挑戦**	**「広げる」** **・記録会や〇〇大会** **・学びを活かす**

ハードル走の指導では、児童の興味・関心を引き出すために、第１時に「小学生日本一のハードル走の写真」と「高校日本一のハードル走の写真」を見せた。そして、それらの写真から気づいたこと（体の動きや歩数）を児童に発表させ、リズムよく跳ぶための工夫を考えさせた。

イ　場の設定の工夫

運動の仕方が「わかる・できる」ように、スモールステップで学びが進めるようにしたり、自分で場を選べるように工夫した。

ハードル走指導で、「１・２・３・トーン」でリズムよく跳ぶことを意識づけるよう工夫した。

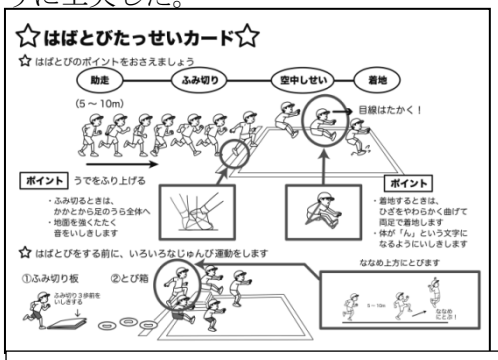


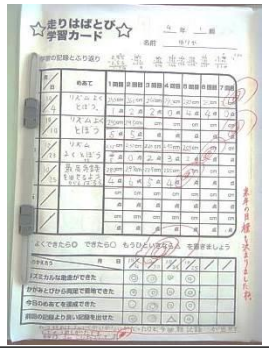
ハードル走指導で、ミニハードルの距離を変えた場を複数用意して、自分に合った歩幅を見つけられるように工夫した。

走り幅跳び指導では、踏切の直前の４歩「ターン・タ・タ・ターン」のリズムを意識できるように工夫した。

(2) 対話的に話合いをさせる工夫

学習カードの効果的な活用(知識をもとにした話合い)を通して、より対話的な話合いができるように工夫した。





ハードル走の指導では、互いに走り幅跳びの様子を見合い、カード（引用文献より）をもとに話し合わせたり、動きの改善点を伝え合ったりさせた。

(3) 深い学びをさせる工夫

気付きを与える工夫(コツや成功の自覚化)をすることで、運動のコツやよりよい動きに気付かせ、よりよい運動の仕方について追究して学びを深めさせるようにした。

タブレットを活用し、自分の動きと友達の動きを比べて、良い点や改善点について話し合うことで、よりよい動きについて気付かせ、学びを深めるようにした。

7　まとめ（成果と課題）

(1) 成果

○　運動との出会い方を工夫したことで、興味・関心を高め、主体的に取り組ませることができた。

○　運動に関する知識を与えることで、技能的に高くない児童も根拠をもって対話的に話合いができた。

○　動画を見せ、動きの比較をさせることで、自分自身のよりよい動きの追求ができた。

(2) 課題

●　深い学びを促すための発問の工夫をしていきたい。

〈引用文献〉

「簡単！授業で役立つ！イラスト＆学習カード」　編者：教師生活向上プロジェクト　発行：錦織圭之介　東洋館出版社